

コルデコット賞の変遷とその背景：
アメリカの児童図書館員による賞

A History of Caldecott Award and the Facts behind It
:an Award by the Children's Librarians in the United States

汐 崎 順 子
Junko Shiozaki

Résumé

The Caldecott award was established in 1938 as the first award for children's picture books in the United States. Each year the Caldecott Medal is awarded by the Association for Library Services for Children (in 1938, it was the Section for Library Work with Children), the children's service division of the American Library Association, to the artist of the most distinguished American picture book published in the previous year. For more than sixty years since it was established, it has had a great influence on illustrators, publishers, librarians and those who are concerned with children's books not only in the United States but also all over the world.

The purpose of this paper is to examine the significance and the cause of success of this award by studying its history and many facts behind it. It was found that the fact "the award by the children's librarians in the United States" has supported strongly its position and authority for many years. As selecting and diffusing good children's books have been recognized as the children's librarians' mission, for them the Caldecott award is the proof of their professional work. Also the economic and social situation of the United States at each period cannot be overlooked. In the United States, to trace the award means to trace the movement and change of libraries and the society.

- I. はじめに
- II. コルデコット賞の概要
 - A. 基本理念・受賞の要件と規準
 - B. 選考委員会
 - C. 選考手順
 - D. 組織等の変遷

汐崎順子：東京都大田区役所，東京都大田区蒲田 5-13-14

Junko Shiozaki: Ota City Office, Kamata 5-13-14, Ota-ku, Tokyo

受付日：2000年8月17日 改訂稿受付日：2001年1月9日 受理日：2001年1月11日

III. 4時代区分にみるコルデコット賞の変遷

- A. 創設以前
- B. 1938年～1950年代
- C. 1960年代～1970年代
- D. 1980年代～1990年代

IV. コルデコット賞の背景

- A. 児童図書館員による賞であることの意味
- B. アメリカ社会の動き
- C. 日本における受賞作の翻訳出版

V. おわりに

I. はじめに

コルデコット賞は1938年に創設されたアメリカ図書館協会主催によるアメリカ初の絵本賞である。同賞はすでにアメリカ図書館協会が1922年、フレデリック・メルチャー (Melcher, Fred-eric G.) によって提唱され創設されたアメリカ初の児童図書賞、ニューベリー賞に続く賞であり、同じくメルチャーによって1937年にその創設を提唱された。賞の選定等の運営は協会中の児童部会 (現在 ALSC; the Association for Library Services to Children) に委ねられ、部会中に設けられたコルデコット委員会の選考のもと、毎年選考の前年1年間にアメリカ合衆国で出版された絵本のうち、最も優れた作品を創った画家に賞が与えられる。賞の名前であるコルデコットとは19世紀のイギリスの著名な絵本画家、ランドルフ・コルデコット (Caldecott, Randolph 1846-1886) に由来するものである。ニューベリー賞と同様、賞金が与えられる金銭的な賞ではなく、受賞者には受賞の名誉としてメダルが授与される。また、受賞作品 (Award Book) には、このメダルを撮した金色のシールが永年貼付され、コルデコット賞受賞作であることが明らかにされる。同時に次点作品 (Honor Books) の作者も表彰され、次点受賞作品には銀色のシールが貼付される。

コルデコット賞は創設以来、アメリカにおいて最も権威のある絵本賞として名実ともにアメリカの絵本文化の発展に大きく貢献し、また世界的にも各国の絵本出版に大きな影響を与えてきた賞で

ある。創設時のアメリカの状況を見ると、当時は「アメリカの絵本の黄金時代」と言われるように、数々の優れた絵本が次々と世に出された時代であった。この背景にはヨーロッパ各国をはじめとする各国からアメリカへ渡ってきた優れた才能を持つ多くの絵本画家の存在がある。彼らは出身地であるそれぞれの国の文化を反映した作品を発表し、多様な絵本の世界を作り出していった。また当時のアメリカの出版界・図書館界では、自国がヨーロッパ諸国のような歴史を持たない国である、という認識の上に組織的に優れた子どもの本を生み出そうという姿勢が打ち出されていた。

また、第2次世界大戦の戦場とならなかったアメリカにおいて、戦中戦後も絵本は発展を続け、また新たに各国より才能豊かな画家をアメリカの新市民として受け入れることになる。

その後、1970年代以降のアメリカの経済的、社会的状況の激しい変化の波にさらされながらも、コルデコット賞はニューベリー賞と肩を並べ、存続した。そして2000年を迎えた現在、最近のコルデコット賞受賞作群を見ると、賞の創設当初とはまた違った性格を帯びてきた印象を受ける。

賞そのものの意義や、存在価値のあり方が、時代と共に変化するのは当然のことである。にもかかわらず、創設後60余年もの間、コルデコット賞が様々な意味でその権威、地位、影響力を保ち続けてきたことは確かである。今なお毎年受賞作の話題は図書館員、出版社、子どもの本の関係者の大きな関心と呼ぶものであり、受賞の証である

シールが貼られた絵本は、図書館に必要な蔵書となり書棚に並ぶ。

この継続の原因は一体何であるのか。また社会の変化とメディアの多様化が急速に進む現在、コルデコット賞受賞作を、果たして本当に子どもが楽しむことのできる絵本として創り手（画家・出版社）、渡し手（図書館員）、受け手（読者）は受け入れているのか。

本稿ではコルデコット賞の現状を把握し、主催の母体である ALSC のコルデコット賞の捉え方や賞に関わる諸要素の変遷、アメリカ社会における受賞作の時代的変遷を追って調査し、現在のコルデコット賞の存在意義を確認すると共に、賞の今後を考察する。

II. コルデコット賞の概要

A. 基本理念・受賞の要件と規準

コルデコット賞の創設にあたっては、メルチャーによって提唱された①子どもの本の分野での独創的、創造的活動を奨励すること、②子どもの本の重要性を世間に広く啓蒙すること、③児童図書館員による子どもの本の批評活動を奨励すること¹⁾、という3つのニューベリー賞創設時の目的がそのままコルデコット賞の基本理念として引き継がれた。ベッテ・ペルトーラ (Peltola, Bette J.) は、賞自体はある意味では長年の間に多少の変化はとげてきたものの、その創設にあたって最初にあった基本理念は今だに重要なものとして認識され続けていると言及している²⁾。また、メルチャーは全ての年齢層の子どもに公平に関わる児童図書館員こそが最もこの賞の選考にふさわしいと述べている¹⁾。

つまりコルデコット賞は創り手、受け手、渡し手の全てに子どもの本の重要性を知らせ、より優れた作品の創作と普及、及び批評活動の後押しをするために作られた児童図書館員による絵本賞であると言える。

前述のペルトーラは、実際 1988 年にコルデコット委員会の議長を務めたが、ALSC 機関誌において4回にわたり、コルデコット賞およびニューベリー賞の選考規約や規準、選考過程等に

ついて記事を書いている²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾。さらに ALSC 機関誌（現在 *Journal of Youth Services in Libraries*）の情報等を合わせ、以下にコルデコット賞選考の現状とその経過等について述べる。

現在コルデコット賞受賞に適用されている賞の規約と規準は 1978 年 1 月に ALSC 議会で採択され、1987 年に部分的に改訂されたものである²⁾ [p. 157-159] が、基本的な要件は 1938 年の賞創設当初から変わらず、大きな改変はなされていないのが現状である。また 1978 年版はニューベリー・コルデコット委員会の分離に先だって採択されたコルデコット賞の選考規準ではあるが、基本的な部分において、現在のニューベリー賞選考の規約、規準と共通な部分が多い。

コルデコット賞は賞選考の前年 1 月から 12 月までにアメリカ国内で最もすぐれた絵本を作った画家に授与される。受賞の資格があるのは、アメリカ市民あるいはアメリカ在住の者に限られている。対象作品はオリジナルなものでなければならないが、コルデコット賞においては作品（絵本）の文と絵が同一人物によるものである必要はない。また 2 人以上の画家による共同の作品であることも可能である。これらの要件を満たす作品についてさらにそれが絵本として絵、内容、テーマ等が優れたものであるか、対象となる子ども（ALSC の規程では 14 才まで）を読者としてきちんと認識したものであるか、など詳細な規準に拠り賞の選考が実施される。選ばれる絵本は該当となる年に出版された作品という範疇で個々に評価される。同一画家の他の著作や以前の業績、受賞の実績などは全て選定の枠外と見なされている。

また 1987 年の規準は以下のような注記で締めくくられている。

委員会はこの賞が優れた絵を持つ絵本、子どもに素晴らしい絵の世界を提供する絵本に与えられる賞であることを心に留めておかなければならない。この賞は教訓的な意図や大衆性を目的としたものではない。

この注記では、コルデコット賞選考に対する児童

図書館員の姿勢が明らかに打ち出されていると言えよう。

B. 選考委員会

アメリカ図書館協会はコルデコット賞およびニューベリー賞の選考の権限を両賞創設の当初から協会中の児童部会（現在 ALSC）に委ねている。

全ての ALSC の会員は、以下の3点においてコルデコット賞の選考に関わる権利を持つ。①コルデコット賞委員会の委員の選出、②候補作の提示（随時選定委員及び議長を通して行う）、③候補作の推薦。ただし、コルデコット賞受賞作の最終決定権はコルデコット委員会が持っている。

委員会の委員は毎年選考を担当する年の前年に選出されるが、全員が ALSC の会員で構成されており、各会員は委員として選出される権利を持っている。その条件として①委員会に出席すること、②新しい本を読むこと、③賞の選考に関していかなる利害関係を持たないこと、が義務づけられている。

現在委員会は15人の委員によって構成され、その内訳は、ALSC 会員によって候補者の中から選出された議長（1名）および委員（7名）、委員に地域的な幅を持たせることと職歴等の要素を考慮し、ALSC の副会長によって指名された委員（7名）となっている。

選出される委員は、通常経験と知識が豊かな中堅以上の図書館員たちである。彼らは当然日々図書館員として主体的に子どもの本の選定に関わっているが、コルデコット賞の選考はその彼らにとっても特異な経験であるようだ。それは賞の選考自体は日常の選書の延長線上にあると捉えられてはいるが、図書館に受け入れるために、一定の選書基準を満たす複数の児童書を選定するという作業とは異なり、限定された1年間に出版された本の中から受賞の要件に拠って唯1冊の本を選び出すという作業であるからであろう²⁾。

C. 選考手順

現在、コルデコット賞の選考は以下の様な日程

と手順で行われている。

委員は選考を担当する前年に選出され、最初にお互いが顔を合わせるのは協会の冬の会合（通常1月）となるが、正式に出席が義務付けられた最初の会合は夏の年次総会（通常6月）である。通常この会で全ての委員が顔を合わせるようになる。この際にはその年の選考の手順や日程等について、打合わせ及び準備がなされる。この間、候補作の提示が委員会の各委員により、また ALSC の個々のメンバーから年間を通じて随時行われている。

秋になると、各委員は候補作となる可能性のある作品のうち、3作を各自選び出し、推薦票を書き、さらに推薦の根拠となる理由を添える。この票は他の委員の検討材料としてコピーされ、全員に配布される。この時期各委員は新しく出版された絵本にできるだけ目を通すこと、他の委員と会員によって提示された絵本を必ず読むこと、必要に応じて何度も読み直しをするという作業に忙殺される。

一方 ALSC の会員は機関誌の秋号での公募に基づき、委員会の議長に各自候補と思われる作品を推薦する。推薦は現在、議長への電子メールでの形でなされ、通常締切りは1月上旬である。

年明け、冬の会合に委員は各自前年に出版された絵本について十分検討した結果を持ち寄って集い、賞の選考作業が始まる。この際、選考の対象となるのは、委員と ALSC の会員によって提示された絵本全てである。数日かけて何度かの会合を繰り返し、最終投票のためのリストを作成する。このリスト作成の際にはしばしば賞の規約や規準に立ち戻り判定を行う。

十分な討議がなされたらと判断された後、いよいよ選出の投票が委員によって実施される。各委員がそれぞれ1-3位の順位をつけて3作品の投票を行う。投票はポイント制になっていて、1位には4ポイント、2位には3ポイント、3位には2ポイントがそれぞれ与えられる。賞を獲得するためには8名以上の委員による1位投票と次点作（2位）との8ポイント以上の得点差が必要とされている。従って一度の投票でこの条件に該当す

る結果が得られなかった場合には、再度委員によって討議の場が持たれ、その後再投票の運びとなる。この作業は該当する作品が出るまで何度も繰り返される。

この過程を経て受賞作 (Award Book) が決定した後、残った候補作の中から次点作 (Honor Books) を選び出す作業が始まる。次点作はそれまでの投票の得票数に関わらず、新たに実施される再投票によって決定され、選出される作品の数は特に定められてはいない (その年々の状況に応じて委員会が判断する)。

アメリカ図書館協会の会議の公開・非公開の方針において、コルデコット委員会は非公開の委員会とされているため、最終投票の対象となる候補作群、各作品の得票数等は伏せられ、次点作は優劣をつけず書名のアルファベット順に発表される。勿論討議の内容、経過についても一切公開されることはないが、選出された受賞作と次点作については委員会の声明を発表することになっている。

受賞作については、冬の会合の終盤にアメリカ図書館協会の各会員と報道機関に発表が行われるが、賞の決定後受賞者名が伏せられている期間は現在では非常に短く、数時間後となっている。過去においては夏の年次総会まで数ヶ月に渡って秘密を保つ方法をとっていたこともあったが、受賞者がまず第1に受賞の知らせを受け取るべきであるということと、各報道機関が公平に同時に発表を受けるべきである、という理由から現在の発表形式に至っている。

この後、公には夏の年次総会において受賞者を招いた大晩餐会が開かれ、受賞者は用意した受賞記念演説をアメリカ図書館協会の会員の前で行うことになっている。

D. 組織等の変遷

1. 組織

ニューベリー賞創設当初から1929年に至るまで、アメリカ図書館協会の児童部会の名称は Children's Librarians' Section であったが1938年のコルデコット賞創設時は the Section for Li-

brary Work with Children となっている。このときコルデコット賞の選定に際して、学校図書館部会の会員も参加させるべきであるという見解から、School Librarians' Section の会員からも5名をニューベリー・コルデコット委員会の委員として選出している。

その後児童部会は1942年に Children's Library Association となり、さらに1958年にはアメリカ図書館協会の組織改正に伴い、Children's Service Division (CSD) が組織された。この時点で児童部会の会員の対象が公共図書館の図書館員のみから、学校図書館員を含む全ての児童サービスに関わる図書館員となり、学校図書館部会からの委員の選出は行われなくなった。

最後の名称変更は1977年に行われ、以来現在に至るまで児童部会は the Association for Library Services to Children となっている。

2. 委員会及び選考手順

1922年、ニューベリー賞創設時においてアメリカ図書館協会の役員評議会は、その選考方法について児童部会の会員によって選出された本をニューベリー賞受賞作とすることを投票によって決定したが、その直後1924年には新しいプランを受入れ、以降選考のための特別委員会を設置し、選考を委ねることにした (委員会制のはじまり)。

さらに1937年には児童部会の提案により、1938年のコルデコット賞創設時から従来の選考委員に学校図書館部会の会員を委員に加えることを認めた。この結果、委員会は23人に拡大された。以来委員の数は約40年の間15~23人の間で推移する。この委員会がニューベリー・コルデコット賞委員会となり、双方の賞の選考が一つの委員会で行われる形でコルデコット賞の選考がはじめられた。

また、1958年にはアメリカ図書館協会の組織改正により、新児童部会 CSD が設立された。このことによって児童部会に学校図書館員も会員として吸収したため、CSD のメンバーより全委員を選出することになった。また1976年には委員

コルデコット賞の変遷とその背景

第1表 コルデコット賞関係年表

年	規程等の変更	／関連記事他	／組織	／その他
1920				
1922	・ニューベリー賞創設			・ Children's Librarian's Section
1924	・ニューベリー賞選考委員会創設			
1925				
1929				・ the Section for Library Work with Children (1929: 世界大恐慌)
1930				
1932	・規準改訂 (賞の独創性と再受賞に関する規定の強化)			
1935				
1938	・コルデコット賞創設			
1939				第2次世界大戦 (~1945)
1940				
1942				・ Children's Library Association
1945				
1949	・選考のスケジュール変更			
1950				
1953				「岩波の子どもの本シリーズ」刊行
1954				<i>A History of the Newberry and Caldecott Medals</i>
1955				
1958	・再受賞の要件「満場一致性」の廃止			・ Children's Service Division 国防教育条例 60年代: ジョンソン政権「偉大な社会政策 「福音館世界傑作絵本シリーズ」刊行
1960				
1961				
1963	・共著による作品も受賞可能となる			
1965				
1966				"They also serve" (TON Vol. 22, No. 29)
1970				
1971	・次点作の名称変更→Honor Books			
1974				"Not another article on the N-C Awards?" (TON Vol. 30, No.3)
1975	・委員の選出スケジュールの変更 (選定の前年へ)			"Honoring the Honor Books" (C & N Medal BKS '66-75)
1977	・ニューベリー・コルデコット委員会の分離決定			・ the Association for Library Services to Children
1978	・選定規準発行 (1978年版) / Honor Books へも 認定書授与決定			
1979	・分離委員会委員選出			特集: "Another look at awards" (TON Vol. 36, No. 1)
1980	・分離委員会による各賞選考			
1981	・分離委員会による各賞決定			
1985				
1986	・Honor Books へも認定書授与			
1987	・選定規準改訂版 (1987年版)			
1988				コルデコット賞 50周年記念特集号 (機関誌誌名変更: J of YS in L Vol. 1, No. 1)
1990				
1995				
1996				ニューベリー賞 75周年記念特集号 (J of YS in L Vol. 1, No. 1)
2000				・第3の賞設定 (J of YS in L Vol. 36, No. 3)

の選出時期が選定該当年の夏からその前年に変更されている。

1978年にはニューベリー賞とコルデコット賞の選考委員会の分離が決定。これに伴い、1979年それぞれの賞について最初の委員が選出された。この委員は1980年に実際の選定作業に携わり、1981年の受賞作が決定されている。

1978年の規約の改正では、ニューベリーとコルデコット賞の選考委員はそれぞれ15名(14名以上の候補者より児童部会の会員によって選出された7名の委員と、2名以上の候補者より、やはり会員によって選出された1名の議長、副会長に指名された7名の委員)で構成されることになった。

3. 規約・規準

既に述べた様に、コルデコット賞および、ニューベリー賞の選考規約と規準については賞の本質に関わるような大きな変更は現在に至るまでなされていないが、ペルトーラはその中で2つの変更注目し言及している²⁾。

一つは次点作(Honor Book)の扱いに関する変更である。これはその名称が1971年までrunners-upであったものが以降Honor Booksに変更され、該当の作品には受賞作と同様メダルを撮影したシール(次点作は銀色)が貼付されるようになったものである。尚この変更は過去の次点作に遡って適用され、以降全ての次点作はHonor Booksと正式に呼ばれるようになった。

これは1966年のホッジズ(Hodges, Margaret)による記事“*They also serve*”⁶⁾をはじめとして次点作に対して正当な価値を認め評価を与えるべきであるという声が高まった結果であろう。またその後も徐々に次点作は注目を集め1978年、次点作の受賞者にも賞の認定証が授与されることが決定、1986年からその実施に至っている。

現在の規約及び規準1987年版において1978年版では何も言及されていなかった次点作について規約中に明文化され、次点作の位置付けが確認されている。

もう一つの注目すべき変更は受賞者および作品

の受賞要件である。1958年にはニューベリー賞創立後1933年に定められた、一人の作家が2度以上賞を受賞するにあたっては、従来の投票とは異なり委員全員の賛成が必要である、という「満場一致制」が廃止された。また、賞創設当初は一つの作品がニューベリー賞およびコルデコット賞両賞の候補作となることができず、賞の選考にあたっては委員によってどちらの賞の対象作にあたるのかがまず審議されていたが、1977年の改訂以降は同時に双方の候補作として選考されることが可能となった。

III. 4 時代区分にみるコルデコット賞の変遷

A. 創設以前

コルデコット賞の時代的変遷を考察するにあたっては、その先駆けであるニューベリー賞の創設当初、1920年代のアメリカにおける子どもの本の状況まで遡る必要があるが、これについてはスミス¹⁾や光吉⁷⁾の文献から把握することができる。それによれば、この時代はまさにアメリカ児童図書出版が輝かしい飛躍の時代に入りつつある時代であり、子どもの本に関わる各界で顕著な活動が始まっていた。

図書館界においては、アン・キャロル・ムーア(Moore, Anne Carrol)が本格的に子どもの本の批評活動を始め、図書館での子どもの本の評価や批評に対して、児童図書館員の関心が高まりつつあった。また社会的な関心も子どもの本へと向けられつつあり、1919年には子ども読書週間(Children's Book Week)が始まった。さらに出版界においては同年に大手出版社Macmillan社が業界初の児童図書部門を設置し、ルイズ・シーマン(Seaman, Louise)を初代編集長に任命した。さらにこれに続き1922年Doubleday社ではメイ・マッシー(Masse, May)が児童図書部門の編集長に任命されている。

またこれ以前の1916年には、ボストンで初の子どもの本の専門店Bookshop for Boys and Girlsが開かれている。これに携わったのはバーサ・マホニー(Mahony, Bertha)らであり、彼女

たちの活動は後の *Horn Book Magazine* へとつながる。これらの動きに加え、第一次世界大戦の影響により優れた作家や画家が多数アメリカに移住したことが、さらにアメリカ児童図書出版の視野を広げる大きな刺激剤となった。

こうした社会状況を受け、まず児童図書賞としてニューベリー賞が誕生する。その後、1920年代の後半以降、子どもの本の作家に続き、絵本画家たちの活動も顕著となった。これに拍車をかけたのが第一次世界大戦後ヨーロッパから輸入されたオフセット印刷であり、この技術により低コストでのカラー絵本の印刷が実現した。

真の意味でのアメリカ初の絵本画家、と高く評価されているワンダ・ガアグ (Gág, Wanda) の初の絵本 *Millions of Cats* (『100 まんびきのねこ』) が出版されたのは1928年のことである。当時のニューベリー賞の次点作中に彼女のこの *Millions of Cats* (1929年) と *ABC Bunny* (1934年) を見出すことができる。

こうして機が熟したところで、メルチャーはニューベリー賞に続く第2の賞として絵本賞のコルデコット賞を提唱し、1938年の創設へと至る。コルデコット賞創設の時代とは、まさに「アメリカの絵本の黄金時代」が始まり、その坂道を登り始めた時代であったと言える。

B. 1938年～1950年代

こうした機運を受けて創設されたコルデコット賞の初期のこの約20年は、アメリカの絵本が内外の刺激を受けて飛躍的に発展する時期として捉えることができる。松本は1930年代から40年代について、多様なイラストレーションの画風が登場したこの時代は、絵本が一つの表現ジャンルとして成立した時代でもあった⁸⁾、と述べている。つまりこの時代は、絵が本の挿絵といういわゆる添え物的な性格のものではなく、絵と文が一体化して作品となっている絵本がその価値と存在意義を見出した時代であると言える。

また松本は1920年代から1930年代にアメリカに移住し、それぞれの国の文化を反映した作品でアメリカの絵本文化に刺激を与えた絵本作家と

してミスカ・ピーターシャム (Petersham, Miska ハンガリーより)、イングリとエドガー・ドーレア (D'Aulare, Ingrid & Edgar スイス、ノルウェーより)、クルト・ヴィーゼ (Wiese, Kurt ドイツから中国を経て)、ジャン・シャロー (Charlot, Jean フランスからメキシコを経て)、さらに少し遅れて来てマーク・サイモント (Simont, Marc フランスより)、ロジャー・デュボアザン (Duvoisin, Roger スイスより) らをあげている。

松本には言及されていないがルドウィヒ・ベームルマンズ (Bemelmans, Ludwig) も彼らに先立ち1914年にオーストリアより移住してきた画家である。

彼らの名前をコルデコット賞受賞作のリストに探すと、主として1940年代、1950年代にほとんどが数回にわたり本賞受賞作、あるいは次点作となっていることが分かる。(ミスカ・ピーターシャム: 42年次点 46年受賞, ドーレア夫妻: 40年受賞, クルト・ヴィーゼ: 46年 49年次点, ジャン・シャロー: 44年 54年次点, マーク・サイモント: 50年次点 57年受賞, ロジャー・デュボアザン: 48年受賞 66年次点, ルドウィヒ・ベームルマンズ: 40年次点 54年受賞)。

さらにこの時代区分の後半、1960年代から次の時代区分につながる同様の動きについては、第2次世界大戦の影響による画家たちの移住があげられる。先進国の中で唯一戦場とならなかったアメリカでは、戦時中も賞の選考がとどえることはなかった。

新天地を求めて新たに移ってきた画家の名前は松本は同様にあげている。レオ・レオニ (Lionni, Leo イタリアより; 60年 64年 68年 70年次点), ベニ・モンテソール (Montresor, Beni イタリアより; 65年受賞), ピーター・スピアー (Spier, Peter オランダより; 62年次点 78年受賞), アニタ・ローベル (Lobel, Anita ポーランドからスウェーデンを経て; 82年次点), ユリ・シュルヴィッツ (Schulevitz, Uri ポーランドからフランス, イスラエルを経て; 69年受賞 80年 99年次点), 八島太郎 (日本より; 56年 59年 68年次点)。

彼らのコルデコット賞および次点受賞歴を見る限り、八島太郎以外、その活動は1960年代以降の次の時代で大きく展開しているようである。

また各国から移住してきた画家以外のこの時期の受賞者を見ると、ロバート・マックロスキー (Maclosky, Robert) をはじめヴァージニア・リー・バートン (Burton, Virginia Lee), マーシャ・ブラウン (Brown, Marcia), マリー・ホール・エッツ (Ets, Marie Hall) 等々日本でも著名な絵本画家の名前を見つけることができる。彼らの作品は1960年代から日本でも高く評価され、子どもたちに受け入れられ続けているものである。

この様に、コルデコット賞創設後の第一期であるこの1950年代までは、アメリカ国外からの画家の刺激を受けて、国内の画家たちが活性化し、両者が相俟ってより大きな絵本出版の波を創り上げていった時期であったと言えよう。そしてコルデコット賞がこの流れの後押しをする大きき力となったことは明らかである。

C. 1960年代～1970年代

コルデコット賞創設後、約20年を経た1960年代とそれに続く1970年代は、初期のアメリカ絵本の黄金時代を経て、絵本が高い水準で安定期を迎える時代である。特に1960年代は先に述べた様に、第2のアメリカ新市民とも言える第2次世界大戦中および戦後にアメリカに渡ってきた各国の画家たち、彼らに刺激されさらに成長をとげたアメリカ従来の画家たちそれぞれがその実力を十分に発揮し、多くの優れた作品を世に送り出している。

特に第2次世界大戦後まもなくのアメリカのグラフィックアートの傾向について、レナード・マーカス (Marcus, Leonard S.) は“それ以前ほどの重々しさがなくなり、ずっとリラックスして、遊び心さえ感じさせるものになった⁹⁾。”と述べている。戦後の開放感に溢れた新天地アメリカの発展と人々の生活が、絵本にもまた反映された時代だったと言えよう。

コルデコット賞もこの時代、優れた多くの絵本

出版に支えられ、絵本賞として安定した地位と権威を確立するが、反面、ある意味で保守化してきた賞の体質や次点作の評価について疑問が生れ、また問題点を指摘する動きが起こる。

次点作(1960年代当初はrunners-up)に対する正当な評価を求める動き、その質の高さを主張する動きは、同時にこの時代、賞の候補となった作品群の層の厚さと質の高さを意味する。

1966年、ホッジズは“*They also serve*”⁶⁾で、ニューベリー賞およびコルデコット賞の各年の次点作中に本賞受賞作にひけをとらない作品が数多く存在することを主張、注目すべき作品を多数取り上げて詳細な説明を述べている。

また、エリザベス・ジョンソン (Johnson, Elizabeth) は、1965年から1975年の間に次点と本賞を受賞した作品と画家について次点作を中心に分析を行っている¹⁰⁾。

彼女はまず、この10年の間に繰り返し次点や本賞を受けている画家が複数存在していることに注目し、例としてエヴァリン・ネス (Ness, Evaline: 64年65年66年次点67年受賞)、エド・エンバリー (Emberley, Ed: 67年次点68年受賞)、ブレア・レント (Lent, Blair) 等の画家を挙げている。

また本賞を受賞した後に、次点を続けて何度も受ける画家もこの時代顕著になったことに注目、マリー・ホール・エッツ (45年52年56年57年次点60年受賞66年次点)、ロジャー・デュボアザン (前述)、エズラ・ジャック・キーツ (Keats, Ezra Jack: 63年受賞70年次点)、モーリス・センダック (Sendak, Maurice: 54年59年60年62年63年次点64年受賞71年82年次点) の名が見られる。

ジョンソンは、同時にこの期間の次点26作のうち、13作品は全くそれまでにコルデコット賞の受賞歴のない画家の作品であることも強調し、コルデコット賞が新しい作家や作品にも目をむけている、と説明しているが、この前後1960～1964年と1976～1979年の本賞受賞作の経歴を見てみると、同じ作家が本賞や次点を繰り返し受賞する傾向が強いことが分かり、コルデコット賞

コルデコット賞の変遷とその背景

第2表 コルデコット賞受賞作一覧

年	原書名	画家名	作者名	出版社	翻訳書名	翻訳者	出版社	翻訳年
1938	Animals of the Bible, A Picture Book	Lathrop, Dorothy	Fish, H. D.	Lippincott				
1939	Mei Li	Handforth, Thomas		Doubleday	メイリイとおまつり	いっしき よしこ	ポプラ社	1967
1940	Abraham Lincoln	D'Aulare, Ingrid & Edgar		Doubleday	エイブラハム・リンカーン	光吉 夏弥、 進士 益太	羽田書店	1950
1941	They Were Strong and Good	Lawson, Robert		Viking				
1942	Make Way for Ducklings	McClosky, Robert		Viking	かもさんおとおり	磯貝 瑠子	日出版	1950
1942	Make Way for Ducklings	McClosky, Robert		Viking	かもさんおとおり	わたなべ しげお	福音館書店	1965
1943	The Little House	Burton, Virginia Lee		Houghton	ちいさいおうち	石井 桃子	岩波書店	1954
1943	The Little House	Burton, Virginia Lee		Houghton	ちいさいおうち	石井 桃子	岩波書店	1965
1944	Many Moons	Slobodkin, Louis	Thurber, James	Harcourt	たぐさんのおつきさま	光吉 夏弥	日出版	1949
1944	Many Moons	Slobodkin, Louis	Thurber, James	Harcourt	たぐさんのおつきさま	今江 祥智	学習研究社	1966
1944	Many Moons	Slobodkin, Louis	Thurber, James	Harcourt	たぐさんのおつきさま	なかがわ ちひろ	徳間書店	1994
1945	Prayer for Child	Jones, Orton Elizabeth	Field, Richard	Macmillan				
1946	The Rooster Crows	Petersham, Maud & Miska		Macmillan				
1947	The Little Island	Weisgard, Leonard	Mac Donald, Golden	Doubleday				
1948	White Snow, Bright Snow	Duvoisin, Roger	Tresselt, Alvin	Lothrop	しろいゆきあかるいゆき	えくに かおり	ブックローン出版	1995
1949	The Big Snow	Hader, Berta & Elmer		Macmillan				
1950	Song of the Swallows	Politi, Leo		Scribner	ツバメの歌、ロバの旅	石井 桃子	岩波書店	1954
1951	The Egg Tree	Milhous, Katherine		Scribner				
1952	Finders Keepers	Mordvinoff, Nicolas	Lipkind, William	Harcourt	ナップとウィンクル	川津 千代	アリス館牧新社	1976
1952	Finders Keepers	Mordvinoff, Nicolas	Lipkind, William	Harcourt	みつけたものとさわったのもの	晴海 耕平	童話館出版	1997
1953	Biggest Bear	Ward, Lynd		Houghton	おおきくなりすぎたくま	渡辺 茂男	福音館書店	1969
1954	Madeline's Rescue	Bemelmans, Ludwig		Viking	マドレーヌといぬ	瀬田 貞二	福音館書店	1973
1955	Cinderella, or the Little Grass Slipper	Brown, Marcia	Perrault, Charles	Scribner	シンデレラ	まつの まさこ	福音館書店	1969
1956	Frog Went A-Courtin'	Rojankovsky, Feodor	Langstaff, John	Harcourt				
1957	A Tree Is Nice	Simont, Marc	Udrey, May Janice	Harper	木はいいなあ	西園寺 祥子	偕成社	1976
1958	Time of Wonder	McClosky, Robert		Viking	すばらしいとき	渡辺 茂男	福音館書店	1978
1959	Chanticleer and the Fox	Cooney, Barbara	Chaucer, Geoffrey	Crowell	チャンティクリアときつね	平野 敬一	ほるふ出版	1976
1960	Nine Days to Christmas	Ets, Marie Hall	Ets, Marie Hall &	Viking	センのボサグの日	田辺 五十鈴	富山房	1974
1960	Nine Days to Christmas	Ets, Marie Hall	Ets, Marie Hall &	Viking	クリスマスまであと九日	田辺 五十鈴	富山房	1991
1961	Baboushka and the Three Kings	Sidjakow, Nicholas	Robbins, Ruth	Houghton				
1962	Once a Mouse	Brown, Marcia		Scribner	あるひねずみが…	やぎた よしこ	富山房	1975
1962	Once a Mouse	Brown, Marcia		Scribner	むかしねずみが…	晴海 耕平	童話館出版	1994
1963	The Snowy Day	Keats, Jack Ezra		Viking	ゆきのひ	きじま はじめ	偕成社	1969
1964	Where the Wild Things Are	Sendak, Maurice		Harper	いるいるおぼけがすんでいる	ウェザヒル翻訳委員会	ウェザヒル出版社	1966
1964	Where the Wild Things Are	Sendak, Maurice		Harper	かいじゅうたちのいるところ	じんぐう てるお	富山房	1975
1965	May I Bring a Friend?	Montesor, Beni	de Regniers, Beatrice	Atheneum	ともだちつれてよろしいですか	渡辺 茂男	富山房	1974

第2表 (つづき)

年	原書名	画家名	作者名	出版社	翻訳書名	翻訳者	出版社	翻訳年
1966	Always Room for One More	Hogrogian, Nonny	Leodhas, Sorche Nic	Holt				
1967	Sam, Bangs, & Moonshine	Ness, Evaline		Holt	へんてこりんなネコとサム	猪熊 葉子	佑学社	1981
1968	Drummer Hoff	Emberley, Ed	Emberley, Barbara	Prentice-Hall				
1969	Fool of the World and the Flying Ship	Schlevitz, Uri	Ransome, Arthur	Farrar	空飛ぶ船と世界一のばか	神宮 輝夫	岩波書店	1970
1970	Sylvester and the Magic Pebble	Steig, William		Prentice-Hall	ロボのシルベスターとまほうのこいし	せた ていじ	評論社	1975
1971	A Story A Story: an African Tale	Haley, Gail E		Atheneum	おはなし, おはなし	芦野 あき	ほろふ出版	1976
1972	One Fine Day	Hogrogian, Nonny		Macmillan	きょうはよいてんき	芦野 あき	ほろふ出版	1976
1973	The Funny Little Woman	Lent, Blair	Mosel, Arlene	Dutton				
1974	Duffy and the Devil	Zemach, Margot	Zemach, Harve	Farrar	ダフィと小鬼	木庭 茂夫	富山房	1977
1975	Arrow to the Sun: A Pueblo Indian Tale	McDermott, Gerald		Viking	太陽へとぶ矢	神宮 輝夫	ほろふ出版	1976
1976	Why Mosquitoes Buzz in People's Ears	Dillon, Leo & Diane	Aardema, Verna	Viking	どうしてかほみみのそばでぶんぶんいうの?	やぎた よしこ	ほろふ出版	1976
1977	Ashanti to Zulu: African Traditions	Dillon, Leo & Diane	Musgrove, Margaret	Dial Press	アフリカのうたと	にしえ まさゆき	偕成社	1982
1978	Noah's Ark	Spier Peter		Doubleday	ノアのはこ船	松川 真弓	評論社	1986
1979	The Girl Who Loved Wild Horses	Goble, Paul		Bradbury	野うまになったむすめ	神宮 輝夫	ほろふ出版	1980
1980	Ox-Cart Man	Cooney, Barbara	Hall, Donald	Viking	にぐるまひいて	もき かずこ	ほろふ出版	1980
1981	Fables	Lobel, Arnold		Harper	ローベルおじさんのどうぶつものがたり	三木 卓	文化出版局	1981
1982	Jumanji	Allsburg, Chris Van		Houghton	ジュマンジ	へんみ まさなお	ほろふ出版	1984
1983	Shadow	Brown, Marcia		Scribner	影ぼっこ	おのえ たかこ	ほろふ出版	1983
1984	The Glorious Fright: Across the Channel with Louis Bleriot	Provinsen, Alice & Martin		Viking	ババの大飛行	脇 明子	福音館書店	1986
1985	Saint George and the Dragon	Hyman, Trina Schart	Hodges, Margaret	Little Brown				
1986	The Polar Express	Allsburg, Chris Van		Houghton	急行「北極号」	村上 春樹	河出書房新社	1987
1987	Hey, Al,	Yorinks, Arthur		Farrar				
1988	Owl Moon	Yolen, Jane		Philomel	月夜のみみずく	くどう なおこ	偕成社	1989
1989	Song and Dance Man	Gammell, Stephen	Ackerman, Karen	Knopf				
1990	Lon Po Po: a Red Riding Hood Story from China	Young, Ed		Philomel	ロンポポ	藤本 朝巳	古今社	1999
1991	Black and White	Macaulay, David		Houghton				
1992	Tuesday	Wiesner, David		Clarion Books	かようびのよる	当麻 ゆか	福武書店	1992
1993	Mirette on the High Wire	McCully, Emily A.		Putnam				
1994	Grandfather's Journey	Say, Allen	Larraine, Walter	Houghton				
1995	Smoky Night	Diaz, David	Bunting, Eve	Harcourt Brace J.				
1996	Officer Buckle and Gloria	Rathmann, Peggy		Putnam	バックルさんとめいけんグラフィ	ひがし はるみ	徳間書店	1997
1997	Golem	Wisniewski, David		Clarion	土でできた大男ゴーレムーチェコの民話	まつなみ ふみこ	新風社	2000
1998	Rapunzel	Zelinsky, Paul O.		Dutton				
1999	Snowflake Bentley	Azarian, Mary	Martin, J. B.	Houghton	雪の写真家ベントレー	千葉 茂樹	BL 出版	1999
2000	Joseph Had a Little Over Court	Taback, Simms		Viking				

最多の受賞歴を持つマーシャ・ブラウン (Brown, Marcia: 48年50年51年52年53年54年次点55年62年83年受賞) や、マーゴット・ツェマック (Zemack, Margot: 70年次点74年受賞78年次点), ジェラルド・マクダーモット (McDermott, Gerald: 73年次点75年受賞94年次点), ディロン夫妻 (Leo & Diane Dillon: 76年77年受賞) らの名前を見出す事ができる。

バーバラ・ベダー (Bader, Barbara) は、独自の豊かな才能と表現力を持っているウィリアム・ベン・デュボア (du Bois William Pene) やトミー・ウンゲラー (Ungerer, Tomi) が本賞を受賞していない事実をとりあげ、この時代、独自の素材や手法、表現で描かれた独創的な作品が、本賞を獲得できることが極めて稀であった、と言及している¹¹⁾。

またベダーは、1976年から1985年までのコルデコット賞受賞作の傾向について、唯一の例外を除いて全ての作品が、昔話や寓話あるいは伝統的な要素を題材として用いたものであると指摘しているが¹²⁾、この受賞作品のパターンの傾向は既に60年代から始まり、特に70年代から顕著になっている。

これはベダーやマークスが述べる様にアメリカの当時の社会の風潮も反映してのことではあるが、賞の傾向として「斬新な作家・作品」が選ばれるのではなく、定番の作家、一定のパターンの作品が賞を受賞しやすい、という保守的な面が強くなってきていることが分かる。

またこの様な賞の保守化と形骸化に対して公に警告を与える記事がこの時期初めて登場する。1974年にゼナ・サザーランド (Sutherland, Zena) はその記事 “Not another article on the Newberry-Caldecott Awards?”¹³⁾ において、ニューベリー・コルデコット委員会のメンバーがいわゆる図書館界のエリート集団、あるいは特定のグループ中の人物によって構成されていること、この委員会によって選ばれた本が実際は本棚におかれたまま読まれない傾向が強いということを鋭く指摘している。また年次総会で催される両賞の受賞記念の大晩餐会に対しても、その形骸化

した自己満足的な内容を批判している。

まさにその記事のタイトルどおり、コルデコット賞とニューベリー賞を既成の固まった方向から見のではなく、他の角度から多角的に見ることを提案した記事である。しかしこの論は、内容としてコルデコット賞とニューベリー賞を根本から否定するものではなく、賞そのものの価値は認めつつ、その新たな方向付けを示唆しての提言となっている。

また、ALSC自身も1979年に機関誌 *THE TOP OF THE NEWS* で特集 “Another look at awards” を組み¹⁴⁾、各賞の在り方についてその意義を見直す姿勢を見せるようになった。

このようにこの時代は、一見絵本の出版も賞も安定し軌道にのった流れにのっているように見えるが、内包する水面下の様々な問題が賞そのものや選考の過程に対して表面化した時代でもある。そしてこの動きが、この時期に実施された1971年の次点作の名称と取扱の変更や1980年代へむけての委員会組織の大幅な改変の動きに、大きな影響を与えたのは確かである。

D. 1980年代～1990年代

いつの時代もコルデコット賞の動きとアメリカ社会の動きとは切り離すことはできないが、特に、1980年代の半ばのアメリカの社会的、経済的な大きな変化が図書館界や、出版界、またコルデコット賞に与えた影響力は大きく、この時代の作品を語る前提として不可欠な要素である、とエセル・ハインズ (Heins, Ethel L.) は述べている¹⁵⁾。

この時代、アメリカ社会は特に1970年代後半から顕著となった経済的不況がさらに進み、また古くからの慣習や規律が崩されて、新しい生活の規準や考え方が生れ、浸透していった。

同様に同書の序文において、リー・キングマン (Kingman, Lee)¹⁶⁾ は、コルデコット賞の意義や理念は創立以来変わらないが、本を受け入れる側が変化していること、絵本に求められる要素が多様化するなど、この10年間に大きく変化があったことを強調している。

彼女は、1986年の子どもは1922年のニューベリー賞創設当初の子どもの様に無邪気で純真な存在ではないこと主張し、賞の創設当初求められていた、子どもの想像力を刺激し、また育てるような内容だけではなく、この時代の不安定な世の中に対する慰めや安心感を彼らに与える要素も、子どもの本に求められる様になったのだ、と言及している。また同時に本以外で子どもたちが興味を抱く新しいメディア—テレビやビデオなど—to対抗し得る本を見出す事が重要であり、かつ難しい問題であるということを指摘している。子どもが子どもでいられる時間がますます短くなる一方で、本に対する読者の欲求が以前ほど大きくない、いわゆる「本離れ」の傾向が起り始めていた。

一方出版社は、かつての理想主義から実用主義へと姿勢を変える傾向が強くなり、売れる本、しかし短命である本が量産される時代になったことも顕著な傾向であるとハインズは言及している¹⁵⁾。同様にマーカスも1980年代から1990年代のアメリカ出版界の状況を“児童書業界が一時的流行や儲け主義の圧力にますます根強く支配されつつある”⁹⁾、と述べている。

ハインズはこの出版傾向に対して危機感を持ち、また実際この時期に出版された絵本の多くが、技術的には優れ、一見きらびやかで美しくはあるが、内容がなく上べだけの作品である、と批判している。また同時にこどもの本が今後本当の意味で生き延びることができるのか、危機感を表明し訴えている¹⁵⁾。

こうした大きな社会の変化という外からの動き、また1960年代から70年代にかけて起きたコルデコット賞の在り方や体質を問う内からの動きを受けて、コルデコット賞はこの時代新しい局面を迎えることになる。実際の賞の選定は1977年のニューベリー・コルデコット選考委員会の分離の決定に伴い、1981年の受賞作からそれぞれの委員会のメンバーで行われる様になった。

コルデコット賞が様々な意味で新しい模索を始めた時代とも言えよう。

2000年の現在へとつながるこの20年間の受

賞作の作品群を見てみると、すでに前に述べた様に、1985年までは昔話や伝説などに素材をとった作品が主流、という受賞作が一定の内容に偏る傾向が見られたが、この時代の作品群の内容には多様な要素が見られるようになり、前の1960年代1970年代に見られるようないわゆるオーソドックスな作品群と新たな画家による斬新な作品が混在していることが分かる。

1982年に本賞を受賞し、1966年から1975年の10年間の間で唯一異色の作品であるとベーターに評価¹²⁾された *Jumanji* (『ジュマンジ』)の作者クリス・バン・オールズバーグ (Allsburg, Chris Van) の1986年の *The Polar Express* (『急行「北極号」』)での2度目の受賞を皮きりに、新しい作家の斬新な作品が受賞作の中に現れる様になった。オールズバーグは絵本創りは映画の製作と共通するものが多いと自ら述べ、映画のディレクターが用いるカメラワークの角度を意識した描写を試み、極めて独創的な作品を創り続けている、と評価される画家である¹⁷⁾。

中国からアメリカに渡り、商業美術から絵本の世界に入ったエド・ヤング (Young, Ed) は、切り絵や書道といった中国的手法を用いることで、絵本の表現を押し広げたとされる独自の画風を持つが⁹⁾、中国の昔話を彼独特のタッチで描いた *Lon po po* (『ロンポポ』)で1990年に本賞を受賞している。

1991年の受賞作デビッド・マコーレイ (Macaulay, David) の *Black and White* は、4つの場面を同時進行させてストーリーを展開させるという以前の受賞作には見られない新しい手法を用いたものである。

デビッド・ウィーズナー (Wiesner, David) はアメリカのアニメーションや無声映画の持つ豊かなイメージをさらにふくらませた作風、と評価される画家であるが、1992年受賞作の *Tuesday* (『かようびのよる』)は、極めて現代的なアートグラフィックな描写で彼独自の絵本の世界を創り上げている。

ポール・ゼリンスキー (Zelinsky, Paul O.) は、センダックにイラストレーションを学び、独自の

精密な描写と技法を得意とし⁹⁾、この時代に入り85年87年95年の次点受賞を経て1998年に*Rupnzal*で本賞を受賞、題材はグリム童話という古典的なものであるが、その手法で新しいグリムの世界を描いている。

また、マーシャ・ブラウンは1983年に、*Shadow* (『影ぼっこ』)で最多の3回(次点も合わせると9回)の受賞を遂げる。ブラウンは、ストーリーの持つ独自の神秘性を引き出すために、新しい表現方法を模索し、以前の作風とは異なった趣の絵本を創り出している¹⁸⁾。

全体として、テキストそのものは長くなる傾向があり、また内容も高度なものが多くなるのもこの時代の特色である。美術的には優れているが、図書館におく本として、子どもが読むにふさわしい本としてはどうかなど、賞の本来の目的が問われる時代となっている。

この時代、コルデコット賞は1988年に、またニューベリー賞は1996年にそれぞれ50周年、75周年という節目というべき年を迎え、機関誌において大々的な特集が生まれ、各関係者から両賞がまだまだ健在であり、今後もその発展に期待する趣旨の記事が寄せられた¹⁹⁾²⁰⁾。

また2000年、ALSCは両賞に続く第3の図書賞として知識の本を受賞の対象とした賞を創設することを決定²¹⁾、3賞合わせて子どもの本の重要性を再確認する姿勢を打ち出している。

IV. コルデコット賞の背景

A. 児童図書館員による賞であることの意味

コルデコット賞は、一面ではその在り方を問われながらも、60余年の間その権威と地位を保ち続け、現在も尚大きな影響力を持った賞であることは明らかである。この原因としてまず、第1にコルデコット賞が「アメリカの・図書館員の・絵本賞である」ということが挙げられる。つまり、賞の選考主体が図書館員である、ということがコルデコット賞において大きな意味を持つのである。

メルチャーが賞の創設当初にあげた3つの基本理念のうちの1つ、この賞によって図書館員の

批評活動を奨励することとは、言い換えれば本を選ぶという図書館員の専門性を認め、また支援することである。

リンダ・シルバー (Silver, Linda R.) は、児童図書館員がどんどん仕事上、本から遠ざけられ、経営的な能力を磨くことを余儀なくされている今、図書館員の基本である選書を前提としたALSCの各賞の存在価値を重視し、またコルデコット賞が図書館員の賞であることの重要性を強調している²²⁾。

コルデコット委員会が、選書というバックグラウンドを持つ図書館員で構成され、選書と同様のプロセスで受賞作が選ばれる、ということは単にその年の最も優れた作品を選び出すことにとどまらず、図書館員が図書館で子どもに提供すべき本を選ぶ、ということをも意味する。コルデコット賞の選考作業は、図書館員が選書という図書館員の専門性を自覚し磨き、また公に対してその能力をアピールする場を得るということでもある。

ALSCのメンバーにとってコルデコット賞の選考に関わることは、とりわけ選考委員会のメンバーになることは1つの名誉であり、それは過去から現在までずっとひきつがれてきた意識であることは、前述のコルデコット賞およびニューベリー賞の記念特集号¹⁹⁾²⁰⁾によせられた会員の各記事の中にも見出す事ができる。

こうして決定された受賞作及び次点作は、必然的に各図書館の蔵書として不可欠な本となり、多少の個人的な賛否の論は存在するとしても、どの図書館も該当作品を所蔵し、またその後も長く子どもに提供するものとして維持することになる。

また、アメリカにおいては、出版のマーケットとしての図書館の影響力も多大である。ミミ・カイデン (Kayden, Mimi) とスザンヌ・グレイザー (Glazer, Suzanne M.) は、出版者の立場からコルデコット賞受賞作が出版界にもたらす影響について述べている²³⁾。

2人によれば、コルデコット賞の受賞作は5万部、次点作については1万から1万2千部の即時の増刷が見込まれるという。また受賞はこの一時的な出版部数の増加のみでなく、受賞作がその後

何年もずっと売れつづけるという保証を得ること、また出版社にとっては、現在そして将来に渡って出版社自身が信望を得ることを意味すると、賞の効用について述べ、賞の出版界への影響力の大きさを明らかにしている。

B. アメリカ社会の動き

コルデコット賞の背景となった第2番目のものとして、アメリカ社会の動きが図書館界、出版界に与えた影響が考えられる。マークスは、ニューベリー賞及びコルデコット賞創設以前から現代に至るまでのこれらの動きについて通史的に詳しく述べている⁹⁾。この記述から考察すると、1900年代のはじめから現在に至るまで、世界大戦や大恐慌、経済不況等、社会的にはマイナスの要素があった時期、アメリカ社会は逆に図書館界、出版界に対し、その活動を支援し活発化させようとした動きがいくつかあったことが分かる。

この根底にあるものは、長い伝統があるヨーロッパ社会に対し、独自に新しい文化、歴史、生活を創りあげていこうというアメリカの意気込みであったにちがいない。

まず、コルデコット賞創設当初の状況についてはIII章のAで既に述べたが、この時代は、ヨーロッパ文化を受け入れつつ、社会の公教育への関心や子どもの健全な人格形成を目指す意識の高まりが見られる。社会の「良い本」への期待感、「図書館員の使命感」が図書館発展の動きへとつながっている。

この動きの中創設されたニューベリー賞及びコルデコット賞は、マークスが述べるように、“作家や画家が新しい形で高い評価を受けるようになったと同時に、最高の本を子どもたちに、と願う親や他の人々に、図書館のお墨付きの本が提供されることになった”賞として人々に認識されるようになったのである。

次に注目されるのは、第2次世界大戦中の児童書出版の急発展である。当初メルチャーは子どもの読書環境の低下を危惧したが、逆の結果となった。この発展の大きな原因は各地の軍需産業の主要な施設に設置された保育園での読書体験であっ

た、とマークスは述べている。戦時下においても教育的、文化的な面を政府や社会が支援する傾向が見られる。

大戦後の時代、さすがに児童書出版も低下するが、この後出版界、図書館に大きな力を与えたのはアメリカのソヴィエトに対する危機感であった。1957年のスプートニクショックにより、アメリカの科学研究や子どもの科学教育に危惧を抱いた政府は、1958年に国防教育条例を制定、科学や数学に関する図書館における児童書購入の連邦基金が定められた。これにより、多数の新刊が出版されるようになる。

続く1960年代にはジョンソン政権による「偉大な社会」政策の一環として政府は図書購入に莫大な連邦予算を計上する。このため贅沢な多色刷りの本が次々と出版され、作者や出版社はあらゆる方面からの本創りに取り組むことができるようになった。またこの予算により、学校図書館が飛躍的に増えた。

上の2例は、政府が啓蒙的な姿勢で出版や図書館活動を強力に支援したことが注目される点である。

次の時代の大きな動きはこれとは異なり、言わば「下から」の動きである。戦後のベビーブーム世代の子どもが大人となり親となった1970年代、自らの幼児時代の経験から、子どもの本の重要性を認識し、我が子に良い本を与えよう、という熱心な動きが広まった。この結果児童書専門店が飛躍的に増え、出版社はそのマーケットを拡大することになる。ハインズもまた、この親の意識について注目し、この時代を“子どもの本のルネッサンスの時代”と言及している¹⁵⁾。

この波は現在までなお続くが、合併や乗っ取りを経て大きく成長し様変わりした出版社の現実主義の「良い本よりも売れる本」創りの姿勢が今問われている。

この様に各時代においてアメリカ社会では、全国的な、あるいは政府規模の、そして草の根的な子どもの本に対する動きが見られ、結果として子どもの本の出版を支え、図書館活動の後押しをする原動力になっている。

コルデコット賞の変遷とその背景

第3表 翻訳作品リスト

表中の賞 A は、本賞 (Award)、賞 H は、次点 (Honor) を示す。

出版年	賞	原書名	画家名	作者名	出版社	翻訳書名	翻訳者	出版社	翻訳年
1944	A	Many Moons	Slobodkin, Louis	Thurber, James	Harcourt	たくさんのおつきさま	光吉 夏弥	日米出版社	1949
1940	A	Abraham Lincoln	D'Aulaire, Ingri & Edgar		Doubleday	エイブラハム・リンカーン	光吉 夏弥、益太	羽田書店	1950
1942	A	Make Way for Ducklings	McClosky, Robert		Viking	かもさんおとおり	磯貝 瑤子	日米出版社	1950
1943	A	The Little House	Burton, Virginia Lee		Houghton	ちいさいおうち	石井 桃子	岩波書店	1954
1950	A	Song of the Swallows	Politi, Leo		Scribner	ツバメの歌、ロバの旅	石井 桃子	岩波書店	1954
1953	H	Puss in Boots	Brown, Marcia	Perrault, Charles	Scribner	長ぐつをはいたネコ (ナマリの兵隊)	光吉 夏弥	岩波書店	1954
1954	H	The Steadfast Tin Soldier	Brown, Marcia	Andersen, H. C.	Scribner	(長ぐつをはいたネコ) ナマリの兵隊	光吉 夏弥	岩波書店	1954
1939	H	Andy and the Lion	Daugherty, James		Viking	アンディーとらいおん	むらおか はなこ	福音館書店	1961
1944	H	A Child's Good Night Book	Charlot, Jean	Brown, Margaret	W. R. Scott	おやすみなさいのほん	石井 桃子	福音館書店	1962
1945	H	In the Forest	Ets, Marie Hall		Viking	もりのなか	まさき るりこ	福音館書店	1963
1959	H	Umbrella	Yashima, Taro		Viking	あまがさ	八島 太郎	福音館書店	1963
1942	A	Make Way for Ducklings	McClosky, Robert		Viking	かもさんおとおり	わたなべ しげお	福音館書店	1965
1943	A	The Little House	Burton, Virginia Lee		Houghton	ちいさいおうち	石井 桃子	岩波書店	1965
1944	A	Many Moons	Slobodkin, Louis	Thurber, James	Harcourt	たくさんのおつきさま	今江 祥智	学習研究社	1966
1964	A	Where the Wild Things Are	Sendak, Maurice		Harper	いるいるおぼけがすんでいる	ウェザヒル翻訳委員会	ウェザヒル出版社	1966
1939	A	Mei Li	Handforth, Thomas		Doubleday	メイリイとおまつり	いっしき よしこ	ポプラ社	1967
1950	H	The Happy Day	Simont, Marc	Krauss, Ruth	Harper	はなをくくん	きじま はじめ	福音館書店	1967
1954	H	Jonrey Cake Ho!	McClosky, Robert	Sawyer, Ruth	Viking	ころりんケーキはい!	山田 純一	ポプラ社	1967
1956	H	Play With Me	Ets, Marie Hall		Viking	わたしとあそんで	よだ じゅんいち	福音館書店	1968
1950	H	Bartholomew and the Oobleck	Dr. Seuss		Random House	ふしぎなウーベタベタ	わたなべ しげお	日本パブリッシング	1969
1953	A	Biggest Bear	Ward, Lynd		Houghton	おおきくなりすぎたくま	渡辺 茂男	福音館書店	1969
1955	A	Cinderella, or the Little Grass Slipper	Brown, Marcia	Perrault, Charles	Scribner	シンデレラ	まつの まさこ	福音館書店	1969
1963	A	The Snowy Day	Keats, Jack Ezra		Viking	ゆきのひ	きじま はじめ	偕成社	1969
1964	H	Swimmy	Lionni, Leo		Pantheon	スイミー	谷川 俊太郎	好学社	1969
1968	H	Frederick	Lionni, Leo		Pantheon	フレデリック	谷川 俊太郎	好学社	1969
1969	A	Fool of the World and the Flying Ship	Schlevitz, Uri	Ransome, Arthur	Farrar	空飛ぶ船と世界一のばか	神宮 輝夫	岩波書店	1970
1940	H	Madeline	Bemelmans, Ludwig		Viking	げんきなマドレーヌ	瀬田 貞二	福音館書店	1972
1960	H	The Moon Jumpers	Sendak, Maurice	Udry, Janice May	Harper	月夜のこどもたち	岸田 裕子	講談社	1972
1962	H	Little Bear's Visit	Sendak, Maurice	Minarik, E. H.	Harper	こぐまのまくん	松岡 享子	福音館書店	1972
1971	H	Frog and Toad are Friends	Lobel, Arnold		Harper	ふたりはともだち	三木 卓	文化出版局	1972
1954	A	Madeleine's Rescue	Bemelmans, Ludwig		Viking	マドレーヌといぬ	瀬田 貞二	福音館書店	1973
1957	H	Anatole	Galdone, Paul	Titus, Eve	MacGraw-Hill	ねずみのアナートル	田谷 多枝子	文研出版	1973
1960	A	Nine Days to Christmas	Ets, Marie Hall		Viking	セシンのボサダの日	田辺 五十鈴	富山房	1974
1963	H	Mr. Rabbit and the Lovely Present	Sendak, Maurice	Zolotow, Charlotte	Harper	うさぎさんとつだってほしいの	こだま ともこ	富山房	1974
1965	A	May I Bring a Friend?	Montresor, Beni	de Regniers, Beatrice	Atheneum	ともだちつれてよろしいですか	渡辺 茂男	富山房	1974

第3表 (つづき)

出版年	頁	原書名	画家名	作者名	出版社	翻訳書名	翻訳者	出版社	翻訳年
1961	H	Inch by Inch	Lianni, Leo		Obolensky	ひとあしひとあし	谷川 俊太郎	好学社	1975
1962	A	Once a Mouse	Brown, Marcia		Scribner	あるひねずみが…	やぎた よしこ	富山房	1975
1964	A	Where the Wild Things Are	Sendak, Maurice		Harper	かいじゅうたちのいるところ	じんぐう てるお	富山房	1975
1970	A	Sylvester and the Magic Pebble	Steig, William		Prentice-Hall	ロバのシルベスターとまほうのこいし	せた ていじ	評論社	1975
1970	H	Goggles!	Keats, Jack Ezra		Macmillan	ピーターのめがね	木島 始	備成社	1975
1970	H	Alexander and the Wind-Up Mouse	Lianni, Leo		Pantheon	アレクサンダとぜんまいねずみ	谷川 俊太郎	好学社	1975
1970	H	The Judge: An Untrue Tale	Zemach, Margot	Zemach, Harv	Farrar	はんじさん	木庭 茂夫	富山房	1975
1973	H	Snow White and the Seven Dwarfs	Ekholm, Nancy	Jarrell, Randal	Farrar	白雪姫と七人の小人たち	八木田 直子	富山房	1975
1952	A	Finders Keepers	Mordvinoff, Nicolas	Lipkind, William	Harcourt	ナップとウィンクル	川津 千代	アリス館牧新社	1976
1957	A	A Tree Is Nice	Simont, Marc	Udrey, May Janice	Harper	木はいいなあ	西園寺 祥子	備成社	1976
1959	A	Chanticleer and the Fox	Cooney, Barbara	Chaucer, Geoffrey	Crowell	チャンティクリアときつね	平野 敬一	ほるふ出版	1976
1969	H	Why the Sun and the Moon Live in the Sky.	Lent, Blair	Dayrell, Elphinstone	Houghton	たいようときはなぜそらにあるの?	岸野 淳子	ほるふ出版	1976
1971	A	A Story A Story: an African Tale	Haley, Gail E		Atheneum	おはなし, おはなし	芦野 あき	ほるふ出版	1976
1972	A	One Fine Day	Hogrogian, Nonny		Macmillan	きょうはよいてんき	芦野 あき	ほるふ出版	1976
1975	A	Arrow to the Sun: A Pueblo Indian Tale	McDermott, Gerald		Viking	太陽へとぶ矢	神宮 輝夫	ほるふ出版	1976
1976	A	Why Mosquitoes Buzz in People's Ears	Dillon, Leo & Diane	Aardema, Verna	Viking	どうしてカはみみのそばでぶんぶんいうの?	やぎた よしこ	ほるふ出版	1976
1974	A	Duffy and the Devil	Zemach, Margot	Zemach, Harve	Farrar	ダフィと小鬼	木庭 茂夫	富山房	1977
1953	H	One Morning in Maine	McClosky, Robert		Viking	海へのあき	石井 桃子	岩波書店	1978
1954	H	A Very Special House	Sendak, Maurice	Krauss, Ruth	Harper	うちがいっけんあったとき	渡辺 茂男	岩波書店	1978
1958	A	Time of Wonder	McClosky, Robert		Viking	すばらしいとき	渡辺 茂男	福音館書店	1978
1976	H	Strega Nona	de Paola, Tomie		Prentice-Hall	まほうつかいのノナばあさん	ゆあさ ふみえ	ほるふ出版	1978
1977	H	The Amazine Bone	Steig, William		Farrar	ものいうほね	せた ていじ	評論社	1978
1948	H	Stone Soup	Brown, Marcia		Scribner	せかい1おいしいスープ	わたなべ しげお	ペンギン社	1979
1956	H	Crow Boy	Yashima, Taro		Viking	からすたろう	八島 太郎	備成社	1979
1959	H	What Do You Say, Dear?	Sendak, Maurice	Joslin, Sesyle	W. R. Scott	そんなときなんていう?	たにかわ しゅんたろう	岩波書店	1979
1978	H	Castle	Macaulay, David		Houghton	キャッスル	桐敷 真次郎	岩波書店	1980
1979	A	The Girl Who Loved Wild Horses	Goble, Paul		Bradbury	野うまになったむすめ	神宮 輝夫	ほるふ出版	1980
1979	H	Freight Train	Crews, Donald		Greenwillow	はしれ,かもつたちのぎょうれつ	田村 隆一	評論社	1980
1980	A	Ox-Cart Man	Cooney, Barbara	Hall, Donald	Viking	にぐるまひいて	もき かずこ	ほるふ出版	1980
1966	H	Just Me	Ets, Marie Hall		Viking	あるあきぼくは…	まさき りりこ	ペンギン社	1981
1967	A	Sam, Bangs, & Moonshine	Ness, Evaline		Holt	へんでこりんなネコとサム	猪熊 葉子	好学社	1981
1980	H	Ben's Trumpet	Isadora, Rachel		Greenwillow	ベンのトランペット	谷川 俊太郎	あかね書房	1981
1980	H	The Garden of Abdul Gasazi	Allsburg, Chris Van		Houghton	魔術師ガザジ師の庭で	へんみ まさなお	ほるふ出版	1981
1981	A	Fables	Lobel, Arnold		Harper	ローベルおじさんのどうぶつものがたり	三木 卓	文化出版局	1981
1977	A	Ashanti to Zulu: African Traditions	Dillon, Leo & Diane	Musgrove, Margaret	Dial Press	アフリカの人びと	にしえ まさゆき	備成社	1982
1952	H	Mr T. W. Anthony Woo	Ets, Marie Hall		Viking	ねずみのウーくん	たなべ いすず	富山房	1983

コルデコット賞の変遷とその背景

第3表 (つづき)

出版年	賞	原書名	画家名	作者名	出版社	翻訳書名	翻訳者	出版社	翻訳年
1982	H	Outside Over There	Sendak, Maurice		Harper	まどのそとのそのまたむこう	わき あきこ	福音館書店	1983
1983	A	Shadow	Brown, Marcia		Scribner	影ぼっこ	おのえ たかこ	ほるぶ出版	1983
1982	A	Jumanji	Allsburg, Chris Van		Houghton	ジュマンジ	へんみ まさなお	ほるぶ出版	1984
1946	H	My Mother is the Most Beautiful Woman in the World	Gannett, Ruth	Reyher, Beckey	Lothrop	わたしのおかあさんはせかいいちびじん	光吉 郁子	大日本図書	1985
1982	H	On Market Street	Lobel, Anita	Lobel, Arnold	Greenwillow	ABCのおかいもの	偕成社編集部	偕成社	1985
1949	H	Blueberries for Sal	McClosky, Robert		Viking	サリーのこけももつみ	石井 桃子	岩波書店	1986
1962	H	Fox Went out on a Chilly Night	Spier, Peter		Doubleday	きつねのとうさんごちそうとうた	松川 真弓	評論社	1986
1978	A	Noah's Ark	Spier Peter		Doubleday	ノアのはこ船	松川 真弓	評論社	1986
1984	A	The Glorious Fright: Across the Channel with Louis Bleriot	Provensen, Alice & Martin		Viking	ババの大飛行	脇 明子	福音館書店	1986
1985	H	Have You Seen My Duckling?	Tafari, Nancy		Greenwillow	さがしてさがしてみんなでさがして	とうま ゆか	福武書店	1986
1986	A	The Polar Express	Allsburg, Chris Van		Houghton	急行「北極号」	村上 春樹	河出書房新社	1987
1988	A	Owl Moon	Yolen, Jane		Philomel	月夜のみみずく	くどう なおこ	偕成社	1989
1960	A	Nine Days to Christmas	Ets, Marie Hall	Ets, Marie Hall &	Viking	クリスマスまであと九日	田辺 五十鈴	富山房	1991
1992	A	Tuesday	Wiesner, David		Clarion Books	かようびのよる	当麻 ゆか	福武書店	1992
1986	H	King Bidgood's in the Bathtub	Wood, Don	Wood, Audrey	Harcourt	おふろじゃおふろじゃバスタブ王ビド	江國 香織	ブックローン出版	1993
1990	H	Bill Peet: An Autobiography	Peet, Bill		Houghton	ぼくが絵本作家になったわけービルビート自伝	ゆあき ふみえ	あすなる書房	1993
1942	H	Nothing At All	Gág, Wanda		Coward	なんにもない	村中 季枝	ブックローン出版	1994
1944	A	Many Moons	Slobodkin, Louis	Thurber, James	Harcourt	たくさんのおつきさま	なかかわ ちひろ	徳間書店	1994
1962	A	Once a Mouse	Brown, Marcia		Scribner	むかしねずみが…	晴海 耕平	童話館出版	1994
1989	H	Free Fall	Wiesner, David		Rothlop	フリーフォール	(文章なし)	ブックローン出版	1994
1991	H	Puss in Boots	Marcellino, Fred	Arthur, Malcom	Di Capua/Farrar	ブーツをはいたねこ	おぐら あゆみ	評論社	1994
1994	H	Raven: A Trickster Take from The Pacific Northwest	McDermott, Gerald		Harcourt	RAVEN (レイバン) 光をもたらしたカラス	晴海 耕平	童話館出版	1994
1994	H	Owen	Henkes, Kevin		Greenwillow	いつもいっしょ	金原 瑞人	あすなる書房	1994
1994	H	Time Flies	Rochmann, Eric		Crown	タイムフライズ	(文章なし)	ブックローン出版	1994
1948	A	White Snow, Bright Snow	Duvoisin, Roger	Tresselt, Alvin	Lothrop	しろいゆきあかるいゆき	えくにかおり	ブックローン出版	1995
1994	H	Yo! Yes?	Raschka, Chris	Jackson, Richard	Orchard	やあともだち!	泉山真奈美	偕成社	1995
1947	H	Rain Drop Splash	Weisgard, Leonard	Tresselt, Alvin	Lothrop	あまつばとりすぷらっしゅ	わたなべ しげお	童話館出版	1996
1953	H	Puss in Boots	Brown, Marcia	Perrault, Charles	Scribner	ながぐつをはいたねこ	光吉 夏弥	岩波書店	1996
1954	H	The Steadfast Tin Soldier	Brown, Marcia	Andersen, H. C.	Scribner	スズの兵隊	光吉 夏弥	岩波書店	1996
1995	H	Swamp Angel	Zelinsky, Paul O.	Issacs, Anne	Dutton	せかいいち大きな女の子のものがたり	落合 恵子	富山房	1996
1952	A	Finders Keepers	Mordvinoff, Nicolas	Lipkind, William	Harcourt	みつけたものとさわたったのもの	晴海 耕平	童話館出版	1997
1990	H	Color Zoo	Ehlert, Lois		Lippincott	エイラトさんのへんしんどうぶつえん	なかかわ ともこ	偕成社	1997
1993	H	The Stinky Cheese Man and Other Fairly Stupid Tales	Smith, Lane	Scieszka, Jon	Viking	くさいくさいチーズボウヤ&たくさんのおとほけ話し	青山 南	ほるぶ出版	1997
1996	A	Officer Buckle and Gloria	Rathmann, Peggy		Putnam	バックルさんとめいけんゴリア	ひがし はるみ	徳間書店	1997
1997	H	Starry Messenger	Sis, Peter		FFB/Farrar	星の使者	原田 勝	徳間書店	1997
1957	H	Mr. Penny's Race Horces	Ets, Marie Hall		Viking	ペニーさんと動物家族	松岡 享子	徳間書店	1998

第3表 (つづき)

出版年	賞	原書名	画家名	作者名	出版社	翻訳書名	翻訳者	出版社	翻訳年
1996	H	Zin! Zin! Zin! A Violin	Priceman, Majorie	Moss, Lloyd	Simon & Schuster	ツイン! ツイン! ツイン! おたのしみのはじまりはじまり	角野 栄子	BL 出版	1998
1997	H	Hush! A Thai Lullaby	Meade, Holly	Ho, Minfong	M. Kroups/ Orchard Bks	しーっ! ぼうやがおひるねして いるの	安井 清子	偕成社	1998
1998	H	Snow	Shulevitz, Uri		Farrar	ゆき	さくま ゆみこ	あすなろ書 房	1998
1990	A	Lon Po Po: a Red Riding Hood Story from China	Young, Ed		Philomel	ロンポポ	藤本 朝巳	古今社	1999
1993	H	Seven Blind Mice	Young, Ed		Philomel Books	7匹のねずみ	藤本 朝巳	古今社	1999
1998	H	The Gardener	Small, David	Stewart, Sara	Farrar	リディアのガーデニング	福本 山美子	アスラン書 房	1999
1999	A	Snowflake Bentley	Azarian, Mary	Martin, J. B.	Houghton	雪の写真家ベントレー	千葉 茂樹	BL 出版	1999
1997	A	Golem	Wisniewski, David		Clarion	土でできた大男ゴーレム-チェ コの民話	まつなみ ふみこ	新風社	2000

C. 日本における受賞作の翻訳出版

松本は、“1930年代以降のアメリカ絵本が世界の絵本界に与えた影響は計り知れず、とりわけ日本の絵本に与えた影響は大きい”⁸⁾、とその影響力の大きさを指摘している。

それでは、日本に大きな影響を与えた絵本群の中、コルデコット賞関係の絵本についてはどうか、各作品の日本における翻訳出版の状況から、その影響について考察する。

第3表では、コルデコット賞及び次点作のうち、翻訳出版されたものを訳の出版年代順に並べた。

2000年の現在に至るまでのコルデコット賞の受賞作は63作、次点作は200作である。このうち、翻訳された受賞作は43作(翻訳点数50点)次点作は63作(翻訳点数65点)、合計106作が115点の翻訳作品として日本に紹介されている。

松本はまた、1950年代から60年代の日本におけるアメリカ絵本の翻訳出版について“この時代、岩波書店や福音館など出版社が次々とアメリカ絵本を翻訳しなかったら今日のような日本の絵本スタイルは成立していなかっただろう”⁸⁾と述べているが、確かに時代別に見てみると1954年から1965年にかけて岩波書店と福音館書店の翻訳出版が顕著である。

本格的な外国絵本受容の時代は1953年の「岩波の子どもの本」のシリーズから始まるとされるが²⁴⁾、第3表に見られる1954年の岩波書店の4点は、このシリーズの第2回配本6冊のうちの3

冊にあたる(『ナマリの兵隊』と『長ぐつをはいたネコ』は、1冊の本に2作収録)。

このシリーズは、安価で買いやすいものを提供しようという意図から、全ての絵本が統一された大きさ、右開き、タテ書きという条件のもと、外国の本でレイアウトを変えなければならないものは編案しなおす、という編集姿勢がとられ²⁵⁾、原書をそのまま翻訳した絵本ではなかった。

しかし三宅らが述べるように²⁴⁾、これらの本はそれでも場面展開、絵の表現、作品の思想などが当時の絵本とは全く違ったものであり、戦後の絵本の創り手たちに多大な影響を与え、従来の絵本観を変える力となった。

このシリーズは現在もなお一部を除き、出版当初の判型と構成で出版されつづけている。またこの中で『ちいさいおうち』『ナマリの兵隊・長ぐつをはいたネコ』は後にこのシリーズとは別に原作の判型で新たに出版された。

この「岩波の子どもの本」のシリーズに刺激を受けた福音館書店は、1961年から海外絵本の翻訳を始め「世界傑作絵本シリーズ」として海外の優れた絵本を積極的に翻訳した。福音館書店は岩波書店から1歩進み、基本的に原作をそのままの形で翻訳、それぞれの絵本の持つ豊かな表現をより強く明確に伝え、日本の絵本出版に大きな影響を与えた。

福音館書店の世界傑作絵本シリーズの翻訳は1960年代以降も続く(第3表に見られる福音館書店の出版は全てこの「世界傑作絵本シリーズ」

の作品)が、出版点数は1960年代から1970年代が圧倒的に多く、コルデコット賞および次点作の翻訳についても、今現在のところ、1988年の『パパの大飛行』が最も新しい翻訳となっている。

1970年代から1980年代には、この2社以外の出版社による翻訳が目立ち始める。子どもの本の出版に力を入れる偕成社、富山房、評論社などの翻訳、レオ・レオニを専ら手がけている好学社などが、印象的であり、また1976年のほるぷ出版の6作同時の翻訳は、明らかにコルデコット賞受賞作および次点作の翻訳を強く意識しての出版傾向であることが分かる。

1990年代になると新手の出版社がコルデコット賞関係の絵本の翻訳を手がけるようになる。ブックローン出版、徳間書店、童話館出版などの出版社である。さらに1990年代後半にはBL出版、古今社、アスラン書房、新風社など規模の小さな出版社が翻訳に取り組み始めている。

これら新しい出版社は、賞をとって間もない作品の翻訳と同時に過去の作品の翻訳、あるいは既に翻訳されたことのある作品の再訳など、幅広くコルデコット賞関係作に目をむけて翻訳の可能性のある絵本を探っている。1990年代に目立つ翻訳傾向である。

この様にコルデコット賞関係の作品の日本における翻訳をたどってみると、岩波書店や福音館書店にはじまった海外の良い絵本の紹介を主眼とした初期から、児童図書出版に力を入れる各出版社の翻訳対象作品となった時期を経て、現在は新手中出版社の絵本出版のターゲットとして注目されていることが分かる。「各年に出版されたアメリカの最も優れた絵本」として紹介されるコルデコット賞受賞作への信頼感が、日本の出版界において現在もやはり根強く存在していることが伺われる。

V. おわりに

児童図書館員による絵本賞であるコルデコット賞がアメリカにおいて、また全世界的に60年以上に渡って大きな影響力を持ち続けた背景には、IV章で述べた様に、アメリカ社会における様々

な要素を鏡のように映し出した結果この賞が発展あるいは継続しつづけてきたという歴史がある。ある意味で、新しい文化を一から創りあげていかなければならなかったアメリカ社会において、図書館や本の普及はまさに、国の文化をつくりあげる最も大きなものとして重要視されていたことがうかがわれる。

政府の政策は即図書館の活動や図書館と結びつき、図書館界が大きな公的な援助を受けることができたことが飛躍と発展をとげることができた大きな力となったと言えよう。

しかし、アメリカ社会が一定の発展を遂げ、文化的・経済的に世界をリードする立場となった現在、そして急速で多様なメディアの発展や急速な子どもの生活の変化など、図書館そのものの変化が余儀なくされる要素が散在している今、コルデコット賞はどの様に生き延びて行くのだろうか。

ALSCはこんな中、既に述べたように、知識の本を対象とした新たな児童図書賞を2000年に創設した。児童サービスにおいて本をやはり重視する姿勢を打ち出している。長年本で勝負してきた児童図書館員の最後の切り札はやはり本にあるのだ、という意識がそこにあるように思われる。

アメリカの公共図書館における児童サービスの中心となり、その活動を支えてきたALSCの今後の活動に注目したい。

引用文献

- 1) Smith, Irene. A History of the Newbery and Caldecott Medals. New York, The Viking Press, 1957. 140 p.
- 2) Peltola, Bette J. "Choosing the Caldecott Medal winners". Journal of Youth Services in Libraries. Vol. 1, No. 2, p. 153-159 (1988)
- 3) Peltola, Bette J. "Choosing the Caldecott Medal winners". "Newbery and Caldecott Medals: authorization and terms". TOP OF THE NEWS. Vol. 36, No. 1, p. 43-47, 49-54 (1979)
- 4) Peltola, Bette J. "Choosing the Caldecott Medal winners". TOP OF THE NEWS. Vol. 33, No. 3, p. 213-216 (1976)
- 5) Peltola, Bette J. "A short history of the Newbery Award". Journal of Youth Services in Libraries. Vol. 10, No. 1, p. 80-84 (1996)

- 6) Hodges, Margaret. "They also serve: the Newbery Caldecott Runners-up". TOP OF THE NEWS. Vol. 22, No. 2, p. 139-155 (1966)
- 7) 光吉夏弥. "世界の絵本賞". 月刊絵本, Vol. 5, No. 2, p. 6-45 (1977)
- 8) 松本猛. "アメリカンイラストレーションの魅力". こどもの本のアメリカンイラストレーション. 東京, いわさきちひろ美術館, 1992. p. 4-5.
- 9) Marcus, Leonard S. 75 Years of Children's Book Week Posters. New York, Alfred A. Knopf, 1994. 74 p. (本に願いを: アメリカ児童図書週間ポスターに見る75年史. 遠藤育枝訳. 兵庫, BL出版, 1998. 94 p.)
- 10) Johnson, Elizabeth. "Honoring the Honor Books". Newbery and Caldecott Medal Books 1966-1975. Boston, Horn Book, 1975. p. 293-302.
- 11) Bader, Barbara. "Picture books, art and illustration". Newbery and Caldecott Medal Books 1966-1975. Boston, Horn Book, 1975. p. 276-289.
- 12) Bader, Barbara. "The Caldecott spectrum". Newbery and Caldecott Medal Books 1976-1985. Boston, Horn Book, 1986. p. 279-312.
- 13) Sutherland, Zena. "Not another article on the Newbery-Caldecott Awards?". TOP OF THE NEWS. Vol. 30, No. 3, p. 249-253 (1974)
- 14) TOP OF THE NEWS. Vol. 36, No. 1 (1979)
- 15) Heins, Ethel L. "A decade of children's books: a critic's response". Newbery and Caldecott Medal Books 1976-1985. Boston, Horn Book, 1986. p. 323-342.
- 16) Newbery and Caldecott Medal Books 1976-1985. Boston, Horn Book, 1986. 358 p.
- 17) Kovacs, Deborah; Preller, James. Meet the Authors and Illustrators. New York, Scholastic, 1991-1993. 2V.
- 18) Brown, Marcia. Lotus Seeds. New York, Macmillan, 1986. 216 p. (絵本を語る. 上田由美子訳. 東京, ブックグループ社, 1994. 368 p.)
- 19) Journal of Youth Services in Libraries. Vol. 1, No. 1 (1988)
- 20) Journal of Youth Services in Libraries. Vol. 9, No. 3 (1996)
- 21) Journal of Youth Services in Libraries. Vol. 13, No. 3 (2000)
- 22) Silver, Linda R. "One book to win: the continuing story of the Newbery-Caldecott Awards". TOP OF THE NEWS. Vol. 36, No. 1, p. 31-33 (1979)
- 23) Kayden, Mimi; Glazer, Suzanne M. "For whom the calls toll: the Newbery-Caldecott Awards from the publisher's view point". TOP OF THE NEWS. Vol. 36, No. 1, p. 35-42 (1979)
- 24) 三宅興子編著. 日本における子ども絵本成立史: 「こどものとも」が果たした役割. 京都, ミネルヴァ書房, 1997. 351 p.
- 25) 光吉夏弥. "岩波の子どもの本 (一): その発行のころのことども". 月刊絵本. Vol. 1, No. 1, p. 80-85 (1973)